



大学研修レビュー

新潟大学医歯学総合病院

小 堺 聡

この度執筆の機会をいただいたので、新潟大学の研修がどのようなものであるかレビューさせていただきます。

一年でローテしたどの科でも大変有意義な研修をさせていただきましたが、いくつかピックアップしたいと思います。

まずは麻酔科です。新潟大学の麻酔科研修は、県内で一番すばらしい研修システムがあると思っています（他院の事情は知りませんが）。手技はとりわけ専門的なものを除けば基本的に研修医がやらせてもらえますし、麻酔導入から抜管・退室まで全ての麻酔過程を責任をもって担当できます。また、手術室外の麻酔業務もほとんどやります。とにかく医療技術が上がる1か月でした。麻酔科志望の研修医はもっとすごいことをしています。

次に救急科です。大学ではERと、CCCあるいはICUを同時にこなします。ERで重症患者さんの対応に参加しつつ、ユニットではこれまた重症患者さんの全身管理をします。そこにさらに様々な手技や業務が加わってきます。とにかく一日せわしなく動き頭を常に使って、いつの間にか夕方の送りの時間です。かなり鍛えられます、手先も頭も心も。並大抵の症例では揺るがなくなります。

精神科も大変満足度の高い研修でした。研修医は新患外来の予診と外来業務を担当します。これがまた色々な意味でハードなのですが、精神科的問診力がとにかくアップします。あとブラインドタッチも。また、外来だけではなく病棟でも症例を割り振られ、加えていろいろな検査に参加します。多くの上級医が「精神科の研修は楽だった」

と過去の思い出を話してくれましたが、大学では嘘です。初年度の研修でトップレベルに忙しかったです。でも逆に裏切られて良かったです。

小児科も2か月回りましたが良い選択でした。病棟では稀で難しい疾患と向き合う子供たちを診させてもらったり、一方急患センターで一般的な小児科診療を経験したり、時にERで小児救急の偉大さを体感したりと、大学でありながら様々な小児科シーンを見れました。

内科もいくつか回り、どの科も素晴らしかったのですが、2か月回った脳神経内科を紹介します。大学で診る神経疾患はとにかく難しいものばかりで、何百何千万人に一人という疾患に出会う毎日でした。疾患の難解さもあり、診断のためにとにかく丁寧に詳細に神経診察をするのですが、ここで大学ならではの教育の厚さのありがたみを実感しました。市中病院とは異なり上級医は一人二人ではありません。各科何人もの先生がその先生ごとの知識や技術を絶え間なく時間をかけて伝授してくださいます。上級医の先生方と何度も診察を行い、今では県内の同期の研修医の中では一番神経診察ができると勝手に自負しています(過度な自信)。

将来総合診療科および救急科進出のために多くの科を経験すべく、たすきがけという旨みを捨て、2年間大学という珍しい選択をしました。しかし今では正解の選択と思えます。1年目は世間のマイナスな大学研修のイメージとは程遠い、かなり満足度の高い経験ができました。2年次は外科やマイナー科を回る予定です。全ての科に期待しています。自分もとにかく働きます。終。